つなげる・つながる

| 冬季特別企画 |

2014.12.20（土）－ 2015.1.18（日）

休館日＝12/29、30、31、1/1、13

○ みんなであそぶプログラム

会期中毎日［10:00－16:00］ 大人と子ども
みんなと「なにか」をつなげて、大きな「なにか」をつくりだすあそびです。

○ あつまるあそぶプログラム

土日祝［14:00－15:00］ 30分前受付
つながりオニなど『手をつなぐとセーフ』のオニごっこです。

○ たべるあそぶプログラム

日曜日［11:00－12:00］ 30分前受付、抽選6組
つなぐがテーマのたべるあそびです。

○ ACCC畑プロジェクト

日時＝12月27日（土）、1月10日（土）、17日（土）［10:00－13:00］
畑をゆっくりのんびりつくっていくプロジェクト。私たち生きものと太陽、空気、水、土とのつながりや、植物が成長するゆるやかな時間を感じます。

○ 大学連携プロジェクト

実施日＝12月21日（日）
名古屋芸術大学美術学部の学生と考えたあそびのプログラムを実施します。

○詳しくは、館内の当日案内をご覧ください。プログラムは予告なく変更することがあります。

愛知県児童総合センター

愛知県児童総合センターは「あそび」をテーマにした県立大型児童館です。1996年の開館以来、子どもと大人がともに、心と身体をフルに活用して遊ぶことで、新しい気づきが実感できる時間と空間を提供しています。また、遊具や遊びのプログラム開発、よりよい児童環境のためのネットワークづくり、セミナー・研修、調査・資料収集、移動児童館など多岐にわたる活動を行っています。

〒480-1342
愛知県長久手市茨ヶ廻間乙1533-1
TEL 0561-63-1110
E-mail info@acc-aichi.org
http://www.acc-aichi.org/

開館時間＝9:00－17:00
入場料＝中学生以下無料、その他300円

12月の休館日＝1、8、15、29、30、31日
1月の休館日＝1、13、19、26日
2月の休館日＝2、9、16、23日

公共交通機関で … 地下鉄東山線「藤が丘」、愛知環状鉄道「八草」から リニモ「愛・地球博記念公園」駅下車
車で … 東名高速・日進JCT経由名古屋瀬戸道路長久手ICから足助方面すぐ（愛・地球博記念公園 北駐車場利用）

編集・発行／愛知県児童総合センター（公益財団法人愛知公園協会）

「つなげる・つながる」。何がつながるんだろう、なにができるんだろう、何とつながっていくんだろう、「つなげる」「つながる」という言葉には人をワクワクさせる不思議な響きがあります。積み木を積み重ねてお城をつくったり、木を組んで橋ができたり、糸が編まれて布や網ができたり、なにかを一つ一つ、積んだり、結んだり、くっつけたりしていくと、大きなものができあがります。それは、一つだけ、二つだけでは味わえない驚きと達成感をもたらしてくれるものでもあります。愛知県児童総合センターでは、過去2回同じテーマであそびを実施してきました。誰かと気持ちがつながることや、自然の中で命がつながること、声が届くこと、カタチがつながっていくことなど、さまざまなものがつながっていくことを感じました。3回目となる今回の「つなげる・つながる」は、一つだけではなく、一人だけでは体験できない、愛知県児童総合センターにあるそれぞれの人と「なにか」をつなげて、大きな「なにか」をつくります。企画の期間中をめいっぱいつかって、みんながつながる、つながったことを体感する、特別な空間が生まれます。

愛知県児童総合センター ｜冬季特別企画｜『つなげる・つながる』

開館時間＝10:00 － 16:00（開館は9:00から17:00） 休館日＝12/29、30、31、1/1、13 入場料＝中学生以下無料、その他300円 主催＝愛知県児童総合センター（公益財団法人 愛知公園協会）

つなげる・つながる

2014.12.20（土）－ 2015.1.18（日） 愛知県児童総合センター（愛・地球博記念公園内）

Aichi Children's Center

子どもとおとな、ドキドキ発見！

ACC レター

Aichi Children's Center

News Letter vol. 18

2014-2015 冬

冬季特別企画
つなげる・つながる

「アートのなかの遊び」
ピクトル・ダミコ in あいち2014
「アート・あそび・キャラバン」

子育てのおはなし 第18話
ACCののぞき穴
募集とお知らせ

愛知県児童総合センター

私たちは応援します ESD AICHI-NAGOYA

太陽のハタ

ひもでかお

さわってつたえる

よめない文字

ひかり・いろ・かたち

清須市はるひ美術館

特別展『ブルーノ・ムナーリ アートのなかの遊び』

この夏、清須市のはるひ美術館では特別展『ブルーノ・ムナーリ アートのなかの遊び』が開催されました。ブルーノ・ムナーリ（1907-1998）は、アートをとおしてあそびと向き合ったアーティストで、彼の生み出した独創的でユーモアにあふれた作品は、愛知県児童総合センター（以下センター）のあそびにもたくさんの影響を与えてくれています。センターも協力し、「太陽のハタ」「ひもでかお」「さわってつたえる」「よめない文字」「ひかり・いろ・かたち」ムナーリに触発されて生まれたあそびのプログラムを、会期中に美術館のおとなりの清須市立図書館で行いました。『アートのなかの遊び』についてはるひ美術館・学芸員の野中祐美子さんにおはなしいただきました。

「アートのなかの遊び」について考える

この夏、清須市はるひ美術館では特別展『ブルーノ・ムナーリ アートのなかの遊び』を開催しました。ムナーリは、多岐に渡る分野で活躍したアーティストですが、その多様さゆえにとらえどころのないアーティストという印象もあるかもしれません。そこで、当館ではムナーリの活動全般が最終的に「遊び」と結びつく点に注目し、それぞれの仕事が「遊び」とどう関連しているのかがわかるような展示を試みました。ムナーリは「遊び」と真剣に向き合った大人でした。だから展覧会でも作品の鑑賞に留まらず、子どもから大人まで「遊び」と真剣に向き合っていただく機会を出来る限り多く設けることを目指しました。

センターは、このムナーリの考え方をベースにたくさんのあそびプログラムを開発しています。今回はその中からムナーリと特に関係の深い5つのプログラムを実施しました。いずれも非常によく練られていて、「遊び」のなかには常に「学び」が存在することを改めて感じました。昨今、多くの美術館でワークショップが盛んに行われていますが、その多くが人数制限や時間制限があり、なおかつ成果物を残すことが求められているきらいがあります。ところが、センターのあそびプログラムはそうしたものとは全く異なり、いつ誰が来ても参加でき、制作したものは全てその場に残して思い出だけを持ち帰ります。

学芸員という立場上、アートは鑑賞する対象であることが大前提です。でも、プログラムの参加者が徹底的に遊びと向き合う様子を見るうちに、アートのなかの「遊び」の要素がどれほど豊かな心を育み、そしていかにアートの本質に触れることが出来るのかを実感しました。ムナーリが生涯かけて取り組んだ「アートのなかの遊び」は、今、まさに私たちが現場で取り組むべき課題なのではないかということを展覧会を通して、そして「遊び」の大先輩であるセンターのプログラムを通して教えていただきました。

はるひ美術館・学芸員　野中祐美子

Victor D'Amico

｜夏季特別企画｜

ビクトル・ダミコ in あいち2014 アート・あそび・キャラバン

いまから70年ほど前にアメリカの近代美術館で初代教育部長をつとめたビクトル・ダミコによって考案された『アートキャラバン』を「国立総合児童センター こどもの城」の協力で愛知県児童総合センター（以下センター）に再現しました。同時に、「表現を楽しむこと」をキーワードにセンターのあそびも展開しました。

このあそびは平成26年度
夏季特別企画として実施しました。

つながりトンネル
ビクトル・ダミコの「アートキャラバン」とセンターの「あそびキャラバン」をつなげるトンネルです。

ビクトル・ダミコのアートティーチングトイ
光・音・色・構成・素材などアートのさまざまな要素を直感的に体験することのできる装置。大人も子どもの心になって一緒に装置を試してなにがおこるかをワクワクしながら体験します。※「アートティーチングトイ」は1995年に「こどもの城」によって復元されました。

コラージュ
「アートティーチングトイ」を体験した後に、体験したことを創作活動として表現します。さまざまな手触りの素材を自由に貼付けていきます。

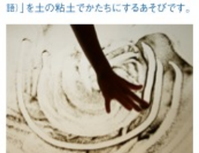
ビクトル・ダミコのアートキャラバン
「アートティーチングトイ」をみんなで体験した後、絵の具を使ったり、コラージュをしたり、絵の具と素材のアート実験をします。

いろいろなカタチ
いろいろなかたちの段ボールに穴をあけたり、飾りをつけたりして「なにか」に見立てます。

音のかたち
ぽにょ、さっ、とことこ、など「オノマトペ（擬音語）」を土の粘土でかたちにするあそびです。

いとはんが
ガムテープと糸を使って簡単なハンコをつくり押していきます。

ふしぎないきもの
自分の手に土の粘土をかぶせてその上に目や口をつけて見たこともない生き物をつくります。



砂絵
砂で絵を描いては消し、描いては消し、自由自在なキャンバスであそびます。

まぜる
卵、片栗粉、牛乳などいろいろな食材をひたすら混ぜて、刻々と変わる色やにおい、感触などを楽しみます。

PICK UP

国立総合児童センター こどもの城

国立総合児童センターこどもの城は、日本で唯一の国立の大型児童館です（2014年10月現在）。造形スタジオ、プレイルーム、音楽スタジオ、劇場などさまざまな機能を持つ複合施設です。1985年に開館し、ブルーノ・ムナーリをはじめ子どもに関わる国内外のアーティストと協力して展覧会やプログラムなどを実施、ほかにも素材を活かした造形活動や、先駆的な映像活動、集団活動など「社会が子どもを育てる」という児童福祉の理念を社会に発信し、全国の児童館を牽引するような活動を継続して行っています。

夏季特別期間中、『ビクトル・ダミコのアートキャラバン』とあわせて「これからの子どもたちのための児童健全育成活動について」を広く考えるきっかけとして、こどもの城のこれまでの魅力的な活動内容を紹介する「動くこどもの城 造形ワークショップ展」を行いました。

※こどもの城の「動くこどもの城」事業の一環として実施しました。

興味深そうに見る大人や、展示物を見て大人に教える子どもたち、なにをどんな目的で行っているか、わかりやすくまとめられた展示内容で多くの人に考えるきっかけをつくってくれました。

子育てのおはなし

臨床心理士
後藤 かをり

第18話

「今できていること」を大切に

ある方が、子どもたちの発達についてこんなことを言っておられ、とても印象的でした。何かを子どもに教えようとするなら、やってほしいことを教えるより、その前の段階のこと＝いまできていることをうんとたくさんして、確かにしていった方がよいということです。

なるほどなあと思います。「這えば立て、立てば歩めの親心」と言いますが、「立つ」ためにはしっかりと座る腰の強さが必要ですし、這うだけの背中や足の強さが必要です。歩くためには立つことが前提です。このような身体の発達は、わかりやすいですが、食事や排せつ、服を着るなどの生活の技術や、人にやさしくするなどの気持ちの面でも同じことが言えると思います。

自分でズボンをはく前には、はかせてもらうときに足を広げたりあげたりすることを繰り返すことが必要ですし、おしっこを教える前には、濡れたことに気が付くことが必要です。友だちと仲良くする前には、自分のものを取られないように守ったり、取られたものを取り返す気持ちの育ちが必要です。これらのそれぞれを、親にしっかりと褒めて認めてもらうことが必要なのだと思います。

私たちは子どもたちに、もっともっとよくなってほしいと思う気持ちがあります。きちんとしつけなければという思いもあります。でも、その気持ちのあまり、子どもたちの自然な、ゆっくりとした確かな発達を待っておられなくなってしまいがちではないでしょうか？ 発達には順番ぬかしはないようです。今できていることをうんと喜び、日々を過ごしたいものです。

ACCののぞき穴

発見ゾーン
「あそびラボ」

あそびラボは全身で新しいメディアと遊ぶ「あそびの実験室」です。実体のない影の世界に自分の影を映して触れるaru※と、大きなテレビの向こう側の鏡に映ったものが遅れて映るズレテレビ。ある秋晴れの午後、あそびラボをのぞいてみると、晴音くんを抱えながら影の山を崩したりズレテレビの周りを何度も走ったり汗をかいて遊んでいる祐太郎さん、そんなふたりを微笑んで見つめる優花さんの家族に出会いました。お母さんお父さんに抱っこされてとても嬉しそうに笑う晴音くんは一日前に一歳になったばかり。お祝いにあそびに来ましたととっても幸せそうで、ろうそくの火が灯ったようなあそびラボでした。

※二宮詩（aru）work in progress 汗かくメディア賞2009年受賞作品

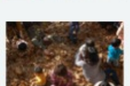
「映像だからケガの心配がなくて安心」

「走るといい運動になるし自分の姿を見て子どもが喜ぶので楽しい」

右から
岡本祐太郎さん、
晴音くん、
優花さん

募集とお知らせ

移動児童館・ゆめたま号



トコトコプログラム

移動児童館・ゆめたま号 12月～2月の開催地決定

児童総合センターの遊びを「ゆめたま号」に乗せて児童館へ運び、現地のスタッフも加わって地域の子どもと大人が一緒になって遊ぶプログラムです。遊びをとおして、たくさんの出会いを楽しみにしています。

◎開催地
12/6（土）東海市／加木屋児童館
12/22（月）東浦町／緒川児童館
1/7（水）豊明市／北部児童クラブ
1/20（火）あま市／甚目寺中央児童館
1/30（金）春日井市／白山小学校
2/7（土）日進市／香久山小学校
2/13（金）豊田市／堤子育て支援センター
2/19（木）設楽町／設楽町子どもセンター

※参加につきましては、各施設へお問い合わせください。

親子であそぶ トコトコプログラム

「大人がたのしいと子どもはうれしい」を合言葉に、小さな子どもとお母さんやお父さんが"一緒に"楽しむプログラムです。見る、触るなどの感覚的なあそびを中心に、いろいろなあそびを親子で体験します。

11/19（水）11:00～11:30 … たべる・あそぶ
11/26（水）11:00～11:30 … つみきであそぶ
12/3（水）11:00～11:30 … はっぱであそぶ
12/10（水）14:30～15:00 … はっぱであそぶ
1/14（水）11:00～11:30 … 音であそぶ
1/21（水）14:30～15:00 … くつしたであそぶ
1/28（水）11:00～11:30 … ヘンシンであそぶ

対象：1歳から3歳の未就園の子どもとその親
定員：15組程度
参加費：無料（児童総合センター入場料300円が必要）
受付：プログラム開始30分前から
1Fインフォメーションにて先着順

※プログラムは予告なく変更する場合があります。詳しくはHPをご覧ください。